



向井ちひろ市議会通信 No.47

水無月会議での一般質問

食と農をつなげるオーガニック給食のさらなる推進を

子どもたちの健全な心とからだを育むためには、より良い「食」が重要です。丹波篠山市は「有機農業」と「食育」の取組みを進めていますが、これらは「地域の持続可能な食と農をつなぐ」というひとつのゴールに向かっており、子どもたちの学校給食、とりわけオーガニック給食を通じて一体的に進めるべきだと考えます。

丹波篠山市では、水稻（お米）の有機栽培面積、有機農業者、学校給食での有機野菜の使用量が増加しています。また、オーガニック給食は、子どもたちや保護者への「食育」として農作物と土づくりの大切さや生物多様性など環境保全の理解を深める機会となります。

私は、子どもたちを育むために、食と農をつなげるオーガニック給食をさらに推進することを議論し、現在は幼稚園、小中学校で行っているオーガニック給食を保育園、こども園においても取り入れていくことを提案しました。

子どもの居場所、自習室の充実を

子どもたちが安心してすごせる居場所づくりや、猛暑にも対応した学習環境の確保のために、自習室、自習スペースの整備が必要です。

神戸市では中高生から「自習スペースがほしい!」という声を受け、「まちなか自習室」というユニークな取組みを始めています。まちなか自習室とは、地域の協力店（カフェやカーディーラーのショールーム等）が空きスペースを無料で使える自習室として中高生に開放しているものです。私は、神戸市のまちなか自習室を視察し、取組みについてお伺いしました。その中で重要だと思った点は、①まちなか自習室は子どもたち自らの声から実現したこと ②子どもたちを応援しようとする事業所の協力、官民連携により成り立っていること ③多世代のふれあいの場にもなっていることです。

丹波篠山市においても、子どもたちの地域での居場所づくりや、自習室の整備の必要性について議論をしました。今後もひきつづき調査していきますので、皆さまのご意見をお聞かせください。



一般質問は録画配信でもご覧頂けます →

※どんなことでもお気軽にご相談ください。メール info@mukaichihiro.org

携帯 090-7550-7596